

周南市入札監視委員会議事概要書

開催日及び場所	令和5年度 第2回周南市入札監視委員会 令和5年11月14日(火) 14:00~16:00 於 周南市役所 5階 委員会室3		
出席委員	委員長 松田 悦治 委員 秋山 一正 委員 長澤 賢一 委員 目山 直樹 (五十音順)		
審議対象期間	令和4年10月~令和5年3月に入札・見積合わせしたもの(令和4年度契約分)		
議事概要	1 開会 2 議事 (1)委員提出議案 「周南公立大学関連の入札案件に対する疑義と今後の対応に関する意見」 (2)周南市入札監視委員会設置規則第2条第2号に基づく審議 <継続審議案件> 大学キャンパス施設整備事業に伴う1号館、2号館、3号館解体工事 <令和4年下半年契約案件> ① 旧西消防署解体工事 ② 競走場雨水ポンプ場改修設計業務委託 ③ 統一地方選挙公営ポスター掲示場設置等業務委託(1地区)、(2地区)、(4地区)~(6地区) ④ 有価物(鉄くず)売却 3 報告 (1)違算に関する報告 (2)令和6年度第1回入札監視委員会について 4 閉会		
抽出件数	総件数	337	件 (備考) 議事(2)①~④の審議については、契約(工事・業務)担当課による事業(工事、業務等)内容等の説明を行い、別添「抽出事案説明書」を基に、入札担当課が説明した。
条件付一般競争入札 (事前審査方式)		8	件
条件付一般競争入札 (事後審査方式)		37	件
指名競争入札		113	件
随意契約(プロポーザル 方式を除く)		174	件
随意契約(プロポーザル 方式)		5	件
委員からの意見・質問、 それらに対する回答等	意見・質問		回答
	議事 (1)委員提出議案 「周南公立大学関連の入札案件に対する疑義と今後の対応に関する意見」 (委員) 継続審議案件の審議に先立ち、以下3点について審議することを提案する。 ①旧徳山大学と周南公立大学における契約の引き継ぎに対する根拠の提示 ②対象工事に関する徳山大学において選定されたプロポーザルに関する一連の資料の開示及び、その時点での周南市の契約担当部署、建築担当部署の関与の仕方に関する資料の提示 ③①及び②の提示と、その結果を踏まえた旧徳山大学が行った契約案件に対する当委員会での対応の在り方についての審議		

<p>(委員長) 委員提出議案の取扱いについては、審議の結果、当委員会で直ちに議題として取り扱い、契約担当課に説明を求めることに決定する。</p>	
<p>委員提出議案の審議 (委員) 大学が公立化することで市のルールに沿うこととなったために、今回のような契約手順となったということか。</p>	<p>(契約担当課) 公立化前の契約ではあるが、公立化することにより市が責任を持ち、将来的に市民に公表されるものであることを前提に進める必要があり、議決等、必要な市のルールに則って進めたために手続きが複雑化した。</p>
<p>(委員) 議案①について、旧徳山大学と周南公立大学における契約の引き継ぎに対する根拠について、提示された資料及び説明により問題ないと判断する。 議案②についても、価格評価の部分等を確認し、理解ができた。 議案③については、旧徳山大学で行ったプロポーザルまで翻って、当委員会でその適切性について審議をしないことを確認したい。</p>	
<p>(委員長) ①と②を踏まえた議案③について、旧徳山大学が行った契約案件に対する当委員会での審議は行わないということによろしいか。 (委員) 出席委員全員了承 (委員長) 審議の結果、継続審議となっていた「大学キャンパス施設整備事業に伴う1号館、2号館、3号館解体工事」は審議対象としないことに決定する。</p>	
<p>(2)周南市入札監視委員会設置規則第2条第2号に基づく審議 ①旧西消防署解体工事 (委員) 解体工事は落札率が低くなると聞かすが、本件が低入札となった理由は。</p>	<p>(入札担当課) 低入札価格調査の結果、施工に必要な重機や車両を自社で保有しており、直接工事費が低く抑えられていることに起因して低入札となった。工事については、契約のとおり、適切に履行された。</p>
<p>②競走場雨水ポンプ場改修設計業務委託 (委員) 予定価格が1千万円を超えて高額であるが、落札率が低い理由は。</p>	<p>(入札担当課) コンサルタント業務については、委託金額の大部分が人件費であるので、業者の履行体制やノウハウ等の事情に応じた見積りの結果、低入札となったと考える。本年度からコンサルタント業務について最低制限価格制度を導入しており、適用範囲の拡大を含め、適切な運用を図っていく。</p>
<p>③統一地方選挙公営ポスター掲示場設置等業務委託(1地区)、(2地区)、(4地区)～(6地区) (委員) いずれも落札率が18.94～38.42%と低いが、同業務3地区の落札率は87.84%であり、乖離が見られる。その理由をどのように考えているか。</p>	<p>(入札担当課) 毎回、本件については低い落札率となっているが、今回は特に低い率であった。憶測ではあるが、手持ちの業務が少ない時期であった等の理由が考えられる。 また、契約担当課において設計することが難しい案件は、複数の業者から徴取した見積書のうち、基本的に最も安価なものを参考とし、設計を行っている。3地区については、設計に採用した見積書を提出した業者が落札したために、落札率が他の案件よりも高くなったと考える。</p>

	<p>(委員) 1業者当たり複数の案件に指名されているが、案件によって参加している場合と辞退している場合がある。その理由をどのように考えているか。</p>	<p>(入札担当課) 業務内容には選挙期間中における掲示場の管理が含まれている。指名選定に当たっては、事業所所在地を考慮してはいるものの、期間中にある程度の人手を要することから、事業所所在地から離れた地区の案件について辞退されているのではないかと推察する。</p>
	<p>④有価物(鉄くず)売却 (委員) 落札率が245.9%と極めて高い理由は。</p>	<p>(入札担当課) 設計金額は、買取価格の変動が大きいため、業者(3者)から徴取した参考見積の平均値とした。 参考見積の金額については、業者が希望する最低の金額を提示してくること、また、2022年5月以降にかけて買取価格が下落した時期に見積を依頼し、入札時期には上昇傾向となったことにより、設計金額と入札価格に開きが生じたものと推測している。</p>
	<p>(委員)最も低い入札額は10円であった。この金額で入札された理由をどのように考えるか。</p>	<p>(業務担当課) 有価物の売却について、魅力がなく、落札する気がないために低い金額で応札をされたと推測する。</p>
	<p>報告 (1)違算に関する報告 入札案件における違算発生について工事担当課から報告を行った後、質疑を行った。 (委員) 平成30年に発生した官製談合事件を受け、技監と検査監の兼務を廃止する等、チェック体制の見直しを行ったが、その後、機能しているのか。</p>	<p>(工事担当課) 技監と検査監の兼務を廃止したことで、指摘を受け誤りを未然防止する等、技監によるチェック体制が非常に機能している状況である。 (技監) 担当課ごとに考え方が異ならないよう、技監により考え方の統一を図っており、この5年間で、担当課において積算等に対する意識が培われてきていると感じる。</p>
	<p>(2)令和6年度第1回入札監視委員会について(事務局) 令和5年5月末で委員の任期が終了する。今後、来期についてご相談させていただく。また、今回は令和6年6月上旬開催予定している。</p>	<p>—</p>
<p>委員会による意見具申又は勧告の内容</p>	<p>なし</p>	